

# おとなのエッセイ

## ささやかな楽しみ

### 深夜の独りミニ講演

志茂田景樹（作家）

ささやかな楽しみはいろいろあるねえ。

外で飲んで帰ってきて、独り静かに仕上げ飲みをする。ぐい呑みを三つ置いて、ワイン、芋焼酎、清酒を注ぎ入れて、じつくりと飲み分ける。生きているという実感がある。

自分のために絵本の読み聞かせをするのもいい。その日ついた感受性の錆を落として眠ることになるもの。

でも、今いちばんのささやかな楽しみは、深夜の独りミニ講演です。持ち時間は五分。砂時計を使うの。

演題は直前に決める。例えば、その日、読み聞かせに行つて小学生の女の子に、カワイイ、と言われたとしましょう。「あの女兒はなぜ僕をカワイイと言つたのか？」が演題になります。

単にイケメンだからカワイイなんだろう、いや違う、頭の色や、着ているものがカメレオンを思わせるからカワイイと言つたんだ、その子はカメレオンがたまたま好きだったんだ、そうかなあ、いい歳こいてやり過ぎなのに、恥ずか

しげもなく幼稚なことをやってるからカワイイんだろう、などと。

なぜかは解析不能、が結びの言葉でした。

「もしも僕が大統領だったら」という演題で、二、三抱負を述べたのですが、うん、昼間から盛り場でウロウロしている連中を検挙して収容所に叩き込む、と言ったら、もう一人の自分が、それじゃお前、独裁者だろ、でチョン。僕は権力を持つてはいけない、が結論でした。

深夜の事務所の白い壁は、ミニ講演を始めると、立見もいる満席の客席になります。拳にした右手を振りかざして、そうでしょ、皆さん、賢明な皆さんからお解りですね、と絶叫（無論、音量を抑えた絶叫です。野中の事務所ではありませんで）すると、そうだそうだ、の掛け声と共に、拍手の嵐です。束の間のナルシストを味わうと、心の洗濯になるのですね。

ところで、今夜の演題は何にしようかなあ。

「五分でしりとり俳句十句の作り方」も悪くないかな。うーん、これだ、「景樹のささやかな楽しみはキモいか清纯素直か」で決まりです。

